

親子聖書日課

[日]誕生日は忘れませんが、霊的誕生日(受浸日)を忘れることはないですか。聖霊を受けて、新しく造り変えられた自覚があれば、忘れないものです。聖霊を受けるには、主に委ねて、主に従うことです。すると、主の愛と証する力が与えられます。

[月]「手で造ったものなど神ではない」と言えば、反発を買うでしょうが、人の手で造った偶像は、人を救う力はないので、恐れずに語りましょう。必ず、偶像から立ち帰る人が起こされます。パウロの大胆さを見倣い、偶像大国の日本を変えましょう。

[火]「深夜の礼拝で眠りこけて転落死」新聞ではなく、聖書の記事ですから、驚きです。しかし、その青年は生き返るのです。どんなに疲れていても、礼拝に参加するなら、霊的に生き返り、信仰は祝されます。眠くても寝学、いや神学は学べます。

[水]パウロは教会の礎を築きましたが、自分がいなければダメになるとは思いませんでした。「神とその恵みの言葉」に信徒を委ねました。御言葉こそ、私達の信仰を成長させ、御国へ導いてくれる唯一の神ナビです。聖書日課に励みましょう。

[木]「主のためなら死ぬことさえ覚悟する」と言ったパウロを周りの人々は思い止まらせます。しかし、福音の使命のためには人情を断ち切って、神のみ旨に服従し、十字架を負うことです。この犠牲があつてこそ、福音が世界に広がったのです。

[金]無意味だと分かっていても古い習慣に合わせることがあります。パウロも「清めの式」をしました。それは長老達と一致を保ち、ユダヤ人を救いに導くためでした。福音の中心点は譲れませんが、救いのためなら、世の人に合わせることも必要です。

[土]大迫害者サウロを大伝道者パウロに変えたのは、人の説得ではなく、天からの声でした。人間は天(神)からの力でしか変えられません。どんなにキリスト教嫌いな人でも神は変えて下さいますから、私達にできることは、諦めないで祈ることです。



NO.1970 2026.6/28-7/4

名前

	聖書	問題	答え
日	使徒言行録 19:1-20	信仰に入った時、何を受 けましたか。	
月	19:21-40	手で造ったものなどは 何ではないですか。	
火	20:1-16	眠りこけて三階から下 に落ちたのは、誰ですか	
水	20:17-38	今、何と何とにあなたが たをゆだねましたか。	
木	21:1-16	何のためならば、死ぬこ とさえも、パウロは覚悟し ていましたか。	
金	21:17-36	パウロは翌日一緒に何 を受けて神殿に入りました か。	
土	21:37- 22:16	私はあなたが迫害して いる誰であると、答えが ありましたか。	
感想と祈りの課題			